

KUBEC 学生ワークショップ「日本の魅力としての大震災からの神戸の復興」

日時 2013年11月28日13:30~17:00

場所 神戸大学ブリュッセルオフィス KUBEC

(Kobe University Brussels European Centre)

Triomflaan 173 boulevard du Triomphe, Brussels

13:30 ワークショップの趣旨説明

神戸大学大学院経済学研究科教授 奥西孝至

13:45 プレゼンテーション1「大震災からの神戸の復興」

神戸大学 IFEEK 学生 2年生(日本より参加)

14:15 プレゼンテーション2「神戸の復興と国際的に見た日本の特徴」

神戸大学 IFEEK 学生 3年生(ヨーロッパに留学中)

14:45 「ヨーロッパから見た神戸の復興」

ルーヴァン・カトリック大学、ヘント大学学生

15:15 コーヒーブレイク

15:45 学生による討論 司会 神戸大学大学院生

16:45 閉会にあたって

(予定) ルーヴァン・カトリック大学人文学部ヴァン・オーバーベイク教授

(予定) ヘント大学人文学部 アンドレアス・ニーハイス教授

本ワークショップは、神戸大学平成25年度国際交流促進事業助成を受け、外務省(国際交流基金)による KAKEHASHI プロジェクトの関連事業として実施します。

以後の行事

11月29日 神戸 IFEEK 学生による関連機関訪問

在ブリュッセル日本国大使館、国際連合防災戦略ヨーロッパ事務局等

11月30日 ベルギー都市視察 ヘント, ブリュッセル

「ヨーロッパの中心としてのベルギー その経済史的前提」

ワークショップ趣旨

日本がこれからの国際社会において貢献していくためには、主体的に日本の魅力を発信し、また、それがどのように受け止められるかを知り、国際的な枠組みの中で日本の魅力とは何かを考える必要があります。

神戸大学経済学部・研究科では、学部＋修士課程を統合し、海外留学を組み込んだ5年一貫教育プログラム（IFEEK）を、2013年度から開始しました。現在、20余名の2年次と3年次の学生が参加して、国際性と専門性とを兼ね備えたグローバル人材育成に向けた教育を受けています。今回、神戸大学は日本の魅力をアメリカに伝えることを目的とした外務省(国際交流基金)による **Kakehashi** プロジェクトの参加校に選ばれており、**IFEEK** の学生がアメリカの諸大学において報告を行います。このブリュッセルでの学生ワークショップにおいても、震災からの神戸の復興をテーマとして報告し、ベルギー諸大学の学生との学術的な交流を深めることをめざします。

「古く中世初期に中国向けの貿易港として築かれた歴史をもつ神戸港は、江戸時代末期に欧米列強向けに開かれた後、アジア向けの港、工業都市大阪を後背地とする輸出港として大きく発展した。神戸港は海外文化の受け入れにも大きな役割を果たした。映画やジャズ・洋菓子など西洋文化がいち早く発展し、異人館街などの遺産は今に受け継がれている。華僑や韓国人、インド人その他の外国人も多く住んでおり、外国系寺院や学校なども存在している国際性豊かで観光業の盛んな町である。他方で、江戸時代に発展した酒造業が盛んな伝統産業の町でもある。真珠やゴムなど、様々な地場産業も港と関連して栄えてきた。しかし、1995年の阪神大震災はこの地域の社会経済に大きな打撃を与えた。6千人余りが死亡し、さらに多くの人々が負傷した。20万戸近い住宅が倒壊・焼失し、ほぼ同数が半壊・半焼となって、30万人以上の人々が避難所生活を強いられた。ライフラインも交通手段も途絶し、工場も商店も港湾も全てが機能停止した。この大震災からの復興は大事業となった。インフラなどハード面での復興は成し遂げられたが、経済やコミュニティ・生活といったソフト面の復興では多くの問題が発生した。この大震災とその復興からの教訓は、現在の東日本大震災からの復興に生かされつつある。現在、世界各地での大規模災害が頻発し、大規模災害からの復興への関心は高い。そこで阪神大震災からの復興過程を社会経済の諸側面に関して分析・検証し、教訓を抽出することで、日本経済・社会の強さを明らかにする。」